

まちづくりだより

平成21年10月16日発行
(2009) No. 53

発行
知立連続立体交差事業
促進期成同盟会
編集
知立市 都市整備部
都市開発課 鉄道高架



知立連続立体交差事業促進期成 同盟会の会長に 「藤澤 貞夫」さんが就任しました

平成21年8月6日開催の知立連続立体交差事業促進期成同盟会総会におきまして、委員皆様のご推挙により会長職に就任しました知立市商工会顧問の藤澤貞夫でございます。

本同盟会は昭和63年10月に設立され、今年で21年という歴史を歩んでまいりました。本同盟会を設立された故渡辺鉦一様、平成14年度から昨年度まで会長を務められた渡辺武様におかれましては敬意を表すと共に、これまでのご尽力に深く感謝申し上げます。

さて、この知立近連続立体交差事業も来年度いよいよ仮線工事に着手することになりました。我々知立市民の長年の願いである「活気ある知立のまちづくり」への第一歩を踏み出すこととなります。

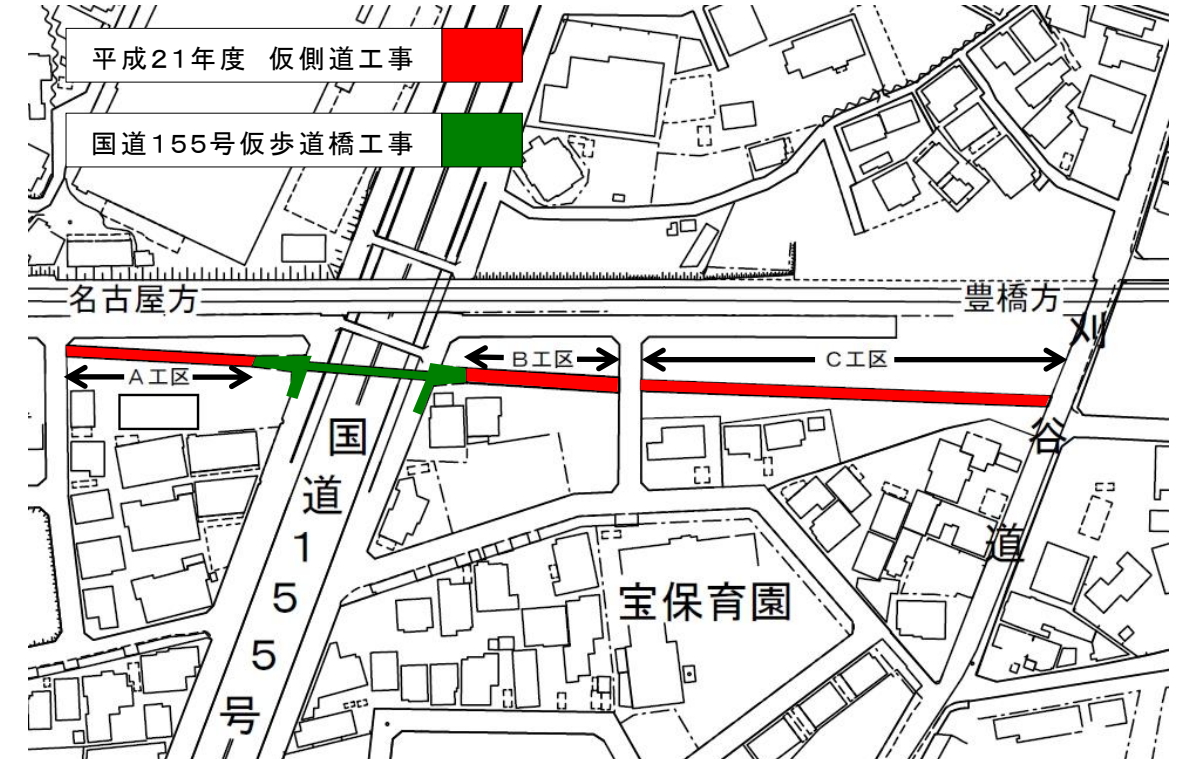
現在は、仮線工事着工を目前に控え、明治用水路付替工事・仮側道設置工事などの準備工事、関係する権利者の方々や関係部署との調整を行っている状況であります。

私も歴代会長の意を引継ぎ、市民の皆様と一丸となって知立駅連続立体交差事業を始めとする「知立駅周辺のまちづくり」を一日も早い実現に向けて努力してまいりますので、皆様方のご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。

知立連続立体交差事業促進期成同盟会
会長 藤澤 貞夫

仮線工事に向けての準備工事 仮側道・仮歩道鏡設置工事の紹介

来年度から仮線工事に着工するにあたり、現在の道路は仮線を撤去する事業完了までの期間利用できなくなります。そのため、事業完了までの期間仮側道を設置します。知立市内の本年度工事箇所は、西一丁目付近、宝二丁目付近を予定しています。



◆仮側道工事 A区

- (1) 工事延長 84m
- (2) 道路幅員 歩道 幅員2.5m
- (3) 工事期間 平成21年10月中旬
～平成22年3月19日

◆仮側道 B区

- (1) 工事延長 55m
- (2) 道路幅員 歩車道 幅員4.0m
- (3) 工事期間 平成21年10月中旬
～平成22年3月19日

◆仮側道工事 C区

- (1) 工事延長 111m
- (2) 道路幅員 歩道 幅員2.5m
- (3) 工事期間 平成21年10月中旬
～平成22年3月19日

◆国道155号 仮歩道橋設置工事(予定)

- (1) 工事内容 仮歩道橋 下部工
- (2) 道路幅員 歩道橋 幅員2.0m
- (3) 工事期間 平成21年12月初旬
～平成22年3月末

問い合わせ先

知立市都市整備部都市開発課鉄道高架係
(知立連続立体交差事業促進期成同盟会事務局)

TEL 0566-85-5882

FAX 0566-82-5775

E-mail tosikaihatu@city.chiryu.lg.jp

事業期間について

詳細設計を行った結果、名古屋本線・三河線（豊田方、碧南方）の高架が完成し、仮線を撤去して側道の整備が完了するのは平成35年度（平成36年3月）となります。

事業費の増加要因

平成12年8月の事業認可時点の事業費より約23%増加した主な原因は次の点があげられます。

- (1) 物価の上昇
- (2) 中3階(乗換え階)の設置
- (3) 駅舎バリアフリーの義務化
- (4) 仮駅の跨線橋設置



コスト縮減検討結果

コスト縮減の検討は、主に高架構造物や鉄道施設の見直し、また三河知立駅移設を検討し愛知県・知立市・名鉄の三者にて取り組んできました。しかし、高架後3階構造となる知立駅の利便性向上のため中3階（乗換え階）を設置する計画とした結果、構造物や鉄道施設の見直しによるコスト縮減よりも高架全体が高くなることによるコストの影響が増さってしまう結果となりました。

三河知立駅の移設に関しては高架の駅を平面の駅にすることによるコスト縮減を検討していましたが、三河線豊田方の複線化、回送運行機能の問題により引続き三者にて議論が必要な状況であり、現時点では結論が出ていません。

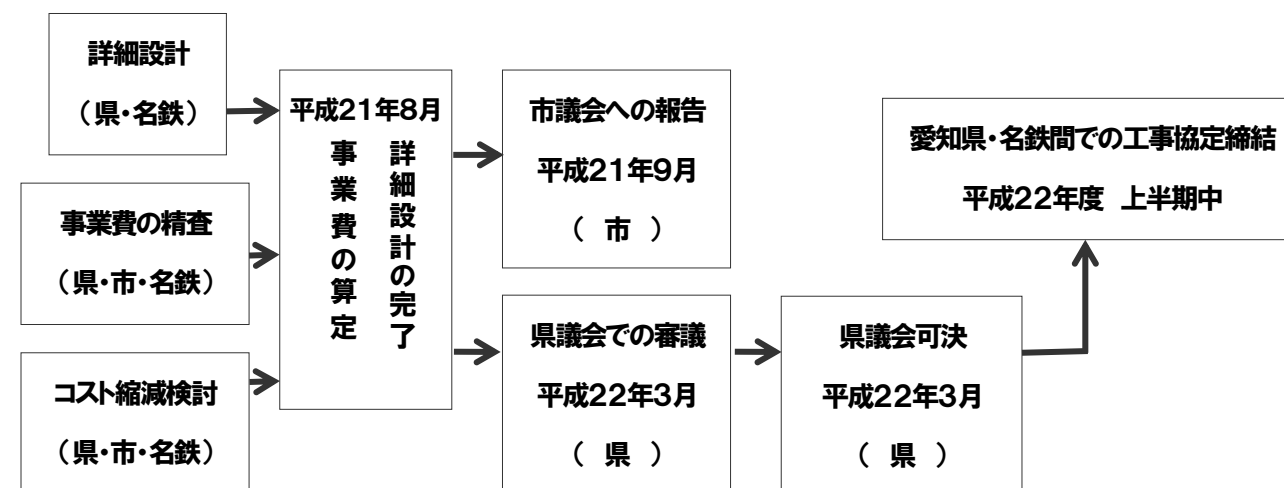
今後の課題

詳細設計による事業費再算定により、事業は116億円増加となりました。それに伴い知立市は25億円の負担増となります。この負担増となった部分については基金や市債にて賄う予定ですが、今後知立連続立体交差事業の工事が本格化し、駅周辺土地区画整理事業もピークを迎えるにあたり、周辺都市に比べて財政規模の小さい知立市はより慎重な財政運営が求められます。そして、連続立体交差事業は知立市のみならず広域的に受益を受けることや、財政規模の観点から愛知県との事業費負担割合を2対1とするよう要望していくなど、事業費負担減に向けてさらなる努力を行ってまいります。

知立連続立体交差事業 愛知県と名鉄との工事協定に向けて

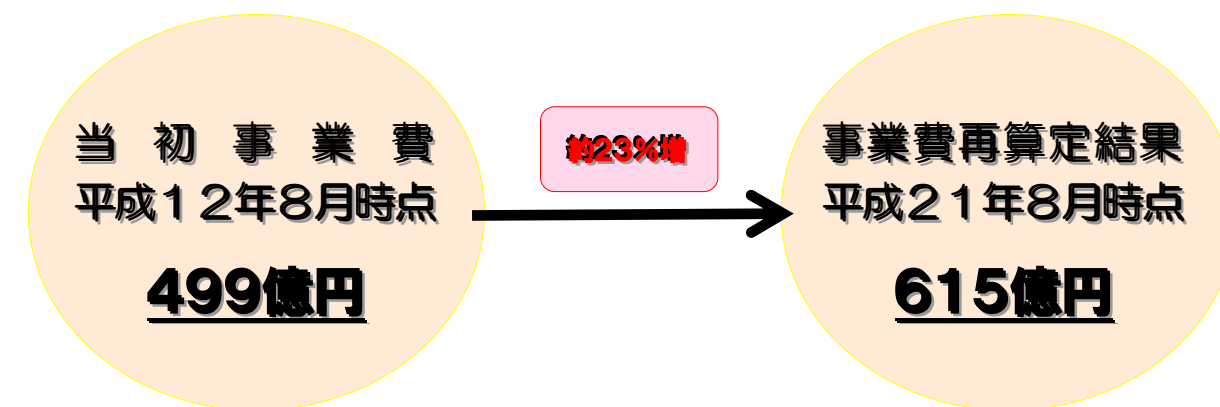
知立連続立体交差事業の仮線工事を始めとする鉄道の高架化工事に着手するにあたり、事業主体である愛知県と名古屋鉄道にて工事協定を来年度に結ぶ予定です。

そして工事協定を結ぶにあたり、鉄道高架化に必要な工事の詳細設計や事業費の再算定を行いました。知立市は事業主体ではありませんが「知立のまちづくり」に大きく関わる事業であり、また総事業費の約21%（総額105億円 H12事業認可時点の額）を負担することから事業費の精査やコスト縮減の検討に取り組んできました。



事業費再算定の結果

愛知県、知立市、名鉄にて詳細設計・コスト縮減に取り組み事業費を精査した結果、知立連続立体交差事業にかかる費用は次のとおりとなりました。



国	210億円	42%
愛知県	105億円	21%
知立市	105億円	21%
名鉄	79億円	16%
合計	499億円	100%

国	260億円	50億円増
愛知県	130億円	25億円増
知立市	130億円	25億円増
名鉄	95億円	16億円増
合計	615億円	116億円増